

マイスター・ハイスクールだより

北海道教育庁学校教育局高校教育課
[令和4年度第1号] R4.7.15発行

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」(北海道静内農業高等学校)～

令和4年度 第1回運営委員会を開催

5月31日(火)、静内農業高校を会場に、令和4年度第1回運営委員会を開催しました。

開会に当たり、委員長の大野町長から「2年目となる今年度が一番重要だと思っていますので、皆様方からの助言をいただきながら、有意義な会議にしていきたい」と挨拶がありました。

委員会においては、桑名副校長から今年度の事業概要の説明があり、伴走者の嶋本さんからは、事業終了後の自走に向けて、他県の取組などの情報提供がありました。



桑名副校長(マイスター・ハイスクールCEO)による説明

「マイスター・ハイスクールビジョン(専門高校における人材育成計画の概要)」は、昨年度の第1回運営委員会において承認されており、これに基づいて本年度も各事業を計画しています。

今年度の事業概要図、マイスター・ハイスクールCEO及び産業実務家教員の配置、今年度の事業計画、重点事項、教育課程や評価方法の改善を図った点は、次のとおりです。

＜マイスター・ハイスクールCEO 及び産業実務家教員の配置＞

マイスター・ハイスクールCEO	今年度から副校長として着任(常勤)
産業実務家教員	今年度、特別免許状を授与し、生産科学科馬事コースの授業を担当。獣医師。(週30時間勤務)

＜今年度の事業概要図＞



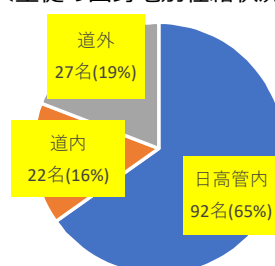
＜2年目の事業計画＞ テーマ『挑戦』

- 専門的知識・技能を有する職業人材を活用した講義及び実践的研修
- 研修(ICT、IoTを活用している農業施設及び農業機械を実地視察、研修)
- 施設見学及び実習など施設・設備の共同利用(産業界、農業関連施設、大学等)
- 馬の仕事に必要な技術・資質が分かる達成表(『ホームマン・レベルアップ・チャート』)の作成
- 「うまキッズ探検隊(仮称)」を企画し、子どもに馬の魅力を伝えるイベントを実施
- 産業界等と連携した食品に関する新たな商品開発・販売の基礎研究
- 遠隔システムを活用した海外の学校との交流
- キャリア・パスポートの活用(指定期間において継続して活用)
- 教育課程の変更及び指導内容等の改善・充実

＜今年度の重点事項＞

プロジェクト学習の充実	デュアル派遣実習の充実
●年3回、助言を受けられる機会の構築 ・年間計画の作成や実験、商品の企画の段階 ・取組状況や調査、実験、試作など、中間の段階(9月頃) ・まとめや評価の段階(11月頃) ●学科共通テーマを設定 - 食品科学科…地域資源を活用した商品開発 - 生産科学科(園芸コース)…地域の基幹作物の収益性向上に関する研究 - 生産科学科(馬事コース)…競走馬の生産、乗馬療育の研究	●ガイダンス機能の充実(科目選択オリエンテーションの他に、担任や学科長との面談の実施) ●目標設定、振り返りの充実 ●受入先との連携による生徒の成長を促す指導の充実(生徒の取組状況や適性の診断、就職に向けた改善点の把握)

＜生徒の出身地別在籍状況＞



＜教育課程の改善＞

学科	改善・充実した内容	理由
学科共通	「英語研究」、「数学研究」の設定 (2、3年・各1単位・希望者が履修)	獣医師志望者や4年制大学志望者に対する学習の強化を図るため
食品 科学科	「商品開発Ⅰ」(2年)2単位の設定 「商品開発Ⅱ」(3年)2単位の設定	「食品製造」「食品化学」「食品流通」「微生物利用」で学んだ知識を活用し、生徒の創造力、実践力等を高めるため
	デュアル派遣実習(2年)1単位の設定 (3年)4単位から5単位に増単	長期休業を活用した企業実習を実施するため
生産 科学科	履修の順序や単位数の調整	年次進行に伴い、発展的な内容となるよう再編するため

＜評価方法の改善＞

項目	内容
アンケート調査(生徒)	定量的目標及び定性的目標の評価・・・4段階で評価 【追加】自由記述(自己の変化として感じる部分の聞き取り)
アンケート調査(運営委員)	事業の内容、教育と指導、全体に関わる項目・・・4段階で評価
【追加】インタビュー調査(生徒)	本事業が、進路選択にどのように影響したか、直接聞き取り
【追加】アンケート調査(教職員)	生徒の変容の様子や、先生方自身のものの見方や考え方の変化についての項目

運営委員からの指導・助言

- 昨年度の事業評価で出された課題を踏まえ、取組の充実が図られているので、しっかりと実施してほしいと思います。
- 小中学生との交流は、農業高校生が学んでいる内容を知ってもらう、よい機会になるため、取組の充実を図ってほしいと思います。
- 発表の機会を町民に周知することは大事だと思います。
- 長期休業中のデュアル派遣実習の実施は、社会性を吸収できるよい機会だと感じています。
- 入学者数が増えたことにより、移動経費の負担が大きくなっているのが課題です。どのように継続していくのか、あと2年で考えていく必要があると思います。
- 内容が充実しすぎているのではないかと思いますので、詰め込みにならないようにしていただければと思います。
- 評価方法について、実際に卒業生が就職した企業からの評価についても、検討する余地があるのではないかと思います。
- 大学に進学した場合に授業についていけなくならないよう、高校で最低限の学力を身に付けておく必要があると思います。
- マイスター・ハイスクール事業を通じて、仕事や職について、いろいろと考えるきっかけになってくれればと思います。
- 民間企業にも、社会貢献が当たり前に求められている時代です。本事業への協力が社会貢献につながると考えますので、積極的に取り組んでいきたいと思っています。
- 現在は、事業の名の下に金銭的な支援がありますが、事業終了後、「この環境が続くのか。」「将来、どうなるのか。」が大変心配です。次に入学してくる1年生が同じような環境で教育が受けられるよう、維持してもらいたいと感じました。
- 資金が途絶えて事業を縮小しなければならないとなった場合、本事業の取組を見て入学してくる生徒にとってはダメージとなるため、今から準備をしていく必要があると思います。

事業終了後の自走に向けた情報提供

事業終了後の自走に向けて、本事業に係る「PDCAサイクル構築のための調査研究」を受託し、本校の伴走者となっている株式会社あしたの寺子屋 代表取締役 嶋本 勇介 氏から、様々な施策の組合せで財源確保している事例について、紹介していただきました。

本校として、継続事業を検討するとともに、どのような職業人材育成システムを構築するかが、今後の検討課題となります。

＜紹介された事例＞

- 1 都道府県・市町村での財源化
- 2 国の制度を活用した資金調達
(過疎債、地域おこし協力隊・集落支援員)
- 3 地元の個人・企業からの資金調達
- 4 関係人口・企業からの資金調達
(企業版ふるさと納税、ガバメントクラウドファンディング)
- 5 製品販売による資金調達

マイスター・ハイスクールだより

北海道教育庁学校教育局高校教育課
〔令和4年度第2号〕 R5.1.13発行

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」（北海道静内農業高等学校）～

令和4年度 第2回運営委員会を開催

10月11日(火)、令和4年度第2回運営委員会をオンラインで開催しました。委員会では、桑名副校長(マイスター・ハイスクールCEO)から、今年度の中間事業報告や教職員に対して実施したアンケート調査の結果について説明が行われ、運営委員から指導・助言をいただきました。

桑名副校長（マイスター・ハイスクールCEO）からの中間事業報告

<今年度の事業実施状況について>

今年度は、122の事業を計画しています。一部新型コロナウイルス感染症の影響により、中止になった事業があるものの、今後もオンラインの活用など、工夫しながら事業を進めていく予定です。

事業数	計画	実施	未実施	中止	実施率
学科別					
食品科学科	36	12	23	1	34%
生産科学科馬事コース	25	10	15	0	40%
生産科学科園芸コース	30	21	9	0	70%
学科共通					
e コマース	17	11	6	0	65%
英語学習	9	5	4	0	56%
演	5	3	2	0	60%
合計	122	62	59	1	51%

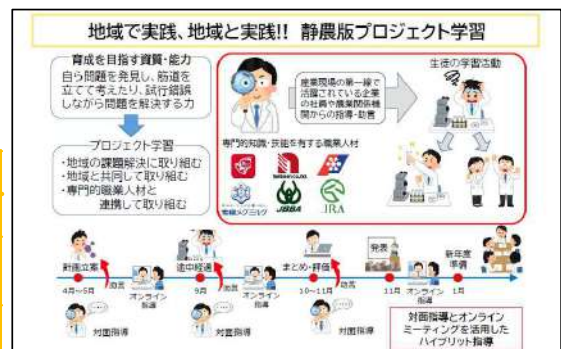
※実施率=実施数÷(計画数-中止数)×100で計算



<特徴的な取組1> プロジェクト学習の充実

科目「課題研究」等で行っているプロジェクト学習では、全ての班が企業等と連携し、「計画」、「中間」、「まとめ」の年3回、連携先から指導・助言を受け、地域課題の解決に向けた取組を進めています。

学科(コース)	連携企業・団体
食品科学科	南華園、ベル食品、雪印メグミルク
生産科学科(馬事コース)	JRA日高育成牧場、JBBA静内種馬場、北里大学
生産科学科(園芸コース)	北海道立総合研究機構(中央農業試験場、花・野菜・技術センター)、日高農業改良普及センター



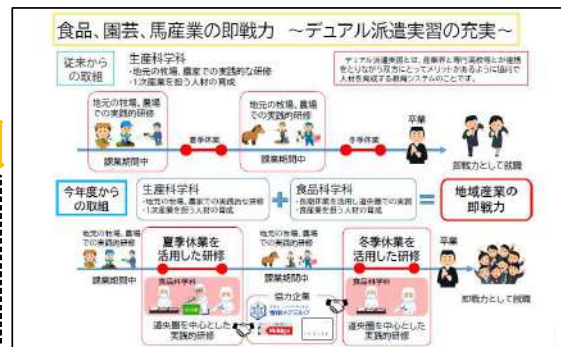
<特徴的な取組2> デュアル派遣実習の充実

食品科学科の学校設定科目「デュアル派遣実習」では、夏季休業期間中の実習を計画し、4社で実施しました。

受入先	石屋製菓、雪印メグミルク、日糧製パン、テイエイ
-----	-------------------------

☆生徒の感想☆

- ・食品製造の実習にて、何となく行っていた白衣の埃除去や手指の消毒の必要性を改めて実感することができました。
- ・初めて、プロの削蹄師の仕事を見て、1頭にかかる時間が短く、素早い作業に衝撃を受けました。



<特徴的な取組3> フランスからの留学生受入

英語教育充実のため、6月27日から7月3日の1週間、フランスからの留学生2名を受け入れ、数学や馬学、学校行事など様々な交流活動を実施しました。



<特徴的な取組4> オンラインによる講演事業

スマート農業の学習内容を深めるため、本校、津別町の農家、NTTドコモ東北支社の3か所をオンラインでつないだ講演事業を実施しました。



<教職員アンケートの結果>（令和4年9月実施）

○「マイスター・ハイスクールビジョン」に関して

4・・・十分取り組まれている (成果が十分上がっている)	3・・・取り組まれている (成果が上がっている)
2・・・取り組まれているが不十分である (わずかに成果が上がっている)	1・・・取り組まれていない (成果が上がっていない)

項目	取組状況 評価平均	達成状況 評価平均
高度熟練技能者による指導や企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の推進及び学校設定科目の設定	3.5	3.0
プロジェクト学習を中核とした教科等横断的な地域課題探究型の学習活動の推進	3.0	2.7
デュアルシステムを活用した地域の企業等と連携したキャリア教育の充実	3.3	3.1
地域や小・中学校と連携した教育活動など、異年齢集団による活動の推進	2.8	2.4
オンライン授業や実験施設を利用した高度な実験・実習など大学等との連携・協働	3.2	3.0
農業経営のグローバル化等に対応するためのeコマースの活用や英語教育の充実	3.3	3.1

○教師自身のものの見方や考え方の変化について

4・・・大いに向上した	3・・・ある程度向上した
2・・・わずかに向上した	1・・・向上していない

項目	評価平均
使命感や責任感・倫理観	2.9
教育的愛情	2.8
総合的人間力	2.7
教職に対する強い情熱・人権意識	2.8
主体的に学び続ける姿勢	3.1
子ども理解力	2.6
教科等や教職に関する専門的な知識・技能	3.0
授業力	2.4
生徒指導・進路指導力	2.5
学級経営力	2.3
新たな教育課題への対応	2.6
学校作りを担う一員としての自覚と協調性	2.7
組織的・協働的な課題対応・解決能力	2.7
地域等との連携・協働力	2.8
人材育成に貢献する力	2.4

運営委員からの指導・助言

- 食品科学科のデュアル派遣実習について、地元で体験できる企業数が少ない中、夏季休業を活用し、大手企業で連続した日程で実施することができ、内容が深まってよかったと思います。
- デュアル派遣実習を受け入れた企業に就職が決まった生徒もいるということで、道内の一次産業の若手人材が不足している中、企業側の課題解決にも素晴らしいつながりができたと思います。
- 教職員へのアンケート結果から、先生方が生徒の気持ちの変化や成長を感じていると同時に、先生自身の向上心が高まったと感じていることが分かりました。
- 地域の普及センターが、この事業が終わっても、通常業務として学校と関わっていけるような関係の構築について、相談しておく必要があると思いました。
- 民間企業が外部講師を引き受けることは、社員教育の一貫として考えると、自分の仕事をきちんと説明するよい機会であると考えますので、社会貢献という意味でも、次年度以降も何らかの形で継続できる形を模索していきたいと思います。
- 獣医学部への進学について、卒業時に国家試験に合格することが目標となるため、現在取り組んでいる数学や英語などの学力向上への取組を継続させ、実力をつけて生徒を受験させてほしいと思います。
- マスコミに取材された様子が、SNSなどで閲覧できたり、拡散されたりすることが、生徒のモチベーションの向上につながっていると感じますので、学校として様々な取組が効果的に行われていると思いました。
- 生徒自身の3年の変化などをアンケート調査することで、事業後につながる何かきっかけが見えるのではないかと感じています。
- 子どもの話をしてくれる先生が多く、温かい先生が多いという印象です。本校を卒業した生徒たちは、先生との思い出がたくさんあると思いますし、関わったことで認められたという気持ちをもっている生徒が多いのではないかと思います。
- 本事業を通じて、生徒も先生も成長していると感じています。就農や就労がしやすい環境をつくっていくのは、私たちの仕事だと考えています。
- 先生方のアンケートからは、事業を進めるうちに、生徒たちが変化に柔軟に対応し、自主的に行動することが増えてきているように思います。こうした生徒の動きを先生方が共有することで、より充実した取組につながると思います。

中間成果発表会に参加しました

11月7日(月)、港区立産業振興センター(東京都)で、中間成果発表会が行われました。

指定を受けた15校(令和3年度12校、令和4年度3校)が、これまでの取組内容や今後の課題について発表し、企画評価委員から講評をいただきました。

また、発表会終了後は、参加者がテーマ毎に分かれて協議や意見交換を行い、本事業についての理解を深めました。なお、参加校の発表資料は、文部科学省のHPIに掲載されています。(R5.1.13現在)

<企画評価委員による講評> (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shinkou/shinko/1421853_00007.htm)

- 具体的でわかりやすい発表でした。最終的な出口が、就職・就農につながり、企業とのミスマッチが起こらないような形で、これからも取組を継続させていってほしいと思います。
- マイスター・ハイスクールCEOが、副校長として常勤でおられるというのは、他校と比べて、コミットされている印象を受けました。

マイスター・ハイスクールだより

北海道教育庁学校教育局高校教育課
[令和4年度第3号] R5.2.28発行

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」（北海道静内農業高等学校）～

令和4年度 第3回運営委員会を開催

1月25日(水)、令和4年度第3回運営委員会を、静内農業高校で開催しました(参集とオンラインによるハイブリッド開催)。委員会では、生徒からの事業報告とプロジェクト学習の取組について、桑名副校長(マイスター・ハイスクールCEO)から、今年度の事業評価について、それぞれ報告があり、運営委員から指導・助言をいただきました。

生徒からの報告

マイスター・ハイスクールの事業で取り組んだ内容や、プロジェクト学習の取組について報告がありました。

学科(コース)	今年度の主な取組
生産科学科 (馬事コース)	・競走馬の育成や利用と調教 ・繁殖牝馬の管理と栄養 ・乗馬療育 など
生産科学科 (園芸コース)	・地域の園芸生産の特色や課題 ・GAPによる農産物の付加価値向上 ・新規就農 など
食品科学科	・外部連携による新商品の開発 リコッタ、ゴーダチーズ、タルト、 レトルトカレー、焼き肉のタレ など
全学科	・地域や農業の魅力発見と発信 ・ネット販売の実践 ・留学生の受け入れ など

【プロジェクト発表】
「活気あるホースタウンを目指して」
～馬を利用した教育プログラムの実践～

日本一の馬産地の次代を担う子どもたちに馬の魅力を伝えたいと考え、3Dプリンタを活用して安定感のある鐙(あぶみ)を製作し、より安全に乗馬が行えるような取組や、小学生に対して、スライドや模型を使いながら馬の特性について説明する出前授業を実施した。

小学生からは、「とても乗りやすい」「馬についてたくさん知ることができた」と高評価だった。こうした活動の様子は、様々なメディアに取り上げられ、地域のみならず全国に向けて発信することができた。



生徒による報告の様子



会場に掲示された
プロジェクト学習の取組



取組を報告する生徒



3Dプリンタで製作した鐙

CEOからの報告

学校長から、定量的目標及び定性的目標に対するアンケートの結果を基に、本事業を通じて、生徒がどのように変容したかなどについて報告があり、次年度の取組の方向性が示されました。

【評価方法】全校生徒を対象にアンケートを実施し、(4：大いにあてはまる(思う)、3：あてはまる(思う)、2：あまりあてはまらない(思わない)、1：まったくあてはまらない(思わない))の4つの選択肢から回答。そのうち、4又は3の回答を肯定的な評価として捉え、その割合の変化で達成度や習得度を測定。(年度始は6月、年度末は12月に実施)

<「定性的目標」に対する評価>

	項目	年度始	年度末	増減
【自己認識】	自分を客観視する力、自分に対する自信ややり抜く力	72.2%	78.5%	+6.3P
【意欲】	物事に対して意欲的に取り組める力	76.0%	81.9%	+5.9P
【忍耐力】	根気強く物事にあたる力	64.3%	71.8%	+7.5P
【自制心】	自分自身の感情や欲望などをうまくコントロールする力	69.5%	77.4%	+7.9P
【メタ認知 ストラテジー】	自分が今置かれている状況や理解度を把握する力	74.0%	80.6%	+6.6P
【社会性】	リーダーシップがとれ、他者とのコミュニケーションがとれる力	62.6%	68.3%	+5.7P
【回復力と 対処能力】	問題が起こった時にすぐに立ち直れる、またそれに対応できる力	66.6%	72.0%	+5.4P
【創造性】	ものを作ったり、工夫したりする力	61.7%	67.3%	+5.6P

<「定量的目標」に対する評価>

項目	目標値	年度始	年度末	増減
ア 地域に魅力を感じ、愛着をもった生徒の割合	在籍者の80%以上	64.9%	72.1%	+ 7.2P
イ 地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	59.2%	67.5%	+ 8.3P
ウ 将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	40.8%	53.7%	+ 12.9P
エ 様々な産業人との交流を通し、自身の進路について考えることができた生徒の割合	在籍者の80%以上	62.8%	76.2%	+ 13.4P
オ 自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的に行えた生徒の割合	在籍者の80%以上	80.4%	82.5%	+ 2.1P
カ ITやICT、IoTの役割を理解し、活用することができる生徒の割合	在籍者の80%以上	79.3%	82.8%	+ 3.5P
キ 卒業後、即就農及び地域の主要産業への就職者の割合	卒業生の50%以上	55.3% (過去3年平均)	54.1%	- 1.2P
ク 卒業後、就農及び地域の技術者を目的とした進学者の割合	卒業生の40%以上	18.4% (過去3年平均)	31.3%	+ 13.1P
ケ 英語で日常的なコミュニケーションができるようになった人の割合	卒業生の30%以上	42.0%	50.4%	+ 8.4P
コ 在学中に海外の人と交流した人数	卒業生の50%以上	72.5%	92.5%	+ 20.0P
サ 将来的な新規参入を目指して進学または雇用就農した人数	3人以上(3年間累計)	0人	2人	+ 2人

<次年度の取組の方向性>

- ・ 2年間の成果を踏まえた教育課程全般の充実と改善による、産業界と連携した人材育成プログラムの構築
- ・ 「プロジェクト学習」の充実など、地域の課題解決に取り組む学習活動の充実
- ・ 専門的職業人材に依頼する授業内容と教員が行うべき授業の機能分担の明確化
- ・ 外部講師による授業の実施方法の検討（対面とオンラインの効果的な活用）
- ・ 生徒の進学先に応じた個別最適な学びの提供に向けた校内協議の実施
- ・ 指定期間終了後を見据えた振興局や企業、経済団体等との連携のあり方の検討



運営委員会で試食提供された
今年度の開発商品8品

運営委員からの指導・助言

今年度の取組に対する意見

- ・ 地域の産業への就職、就業に結びつく機運が少しずつできており、取組がよい方向に進んでいると感じている。
- ・ 生徒達が楽しみながら授業を受けていることが、大変よく伝わってきた。
- ・ 本来なら地元の企業がやるべきの安全な籠の製作に、高校生が問題意識をもって取り組んでくれたことに大変感謝している。
- ・ 地域連携の充実は、地域の魅力を知り、愛着をもつことにつながり、進路にも反映されるため、大事にしていきたい。
- ・ 獣医療の学習において、知識や技術の習得と同じくらい心の教育が大切であり、小学生との交流により、コミュニケーション能力を高めることは、とても大きいと感じている。

課題や今後の取組に対する意見

- ・ 地域に貢献したいという考える生徒を増やすために、プロジェクト学習において、成功や失敗などの様々な経験を重ねたり、関係機関との連携の中で、社会性を高めるなど、自信を付けていくことが大切である。
- ・ 町の広報やテレビ、新聞などによる取組の発信は、地元の人の話題になったり、注目されるためにも大事だと考える。
- ・ 取組を充実させることは素晴らしいことであるが、長い目で見て、生徒の負担になりすぎないような連携のあり方を考えていく必要がある。
- ・ 外部講師として授業を行う上で、何が一番効果的で、どんな観点が価値の高い授業なのかを考えていきたい。
- ・ 企業として、職員の待遇改善に取り組むとともに、水産業や卸業など異業種の取組を職員の研修に活用したい。

伴走者からの指導・助言

- ・ 事業終了後に向けて、この素晴らしい取組の火を消すことなく継続していけるよう、教育委員会や新ひだか町、企業等が意見を出し合い、議論を進めてほしい。

**令和4年度(2022年度)
マイスター・ハイスクール事業研究実施報告書(第2年次)
令和5年3月**

指定校名 北海道静内農業高等学校

〒056-0144 北海道日高郡新ひだか町静内田原797番地
TEL:0146-46-2101 FAX:0146-46-2151
website : <http://www.shizunainougyou.hokkaido-c.ed.jp/>